

第 132 回 学長定例記者会見

日時：令和 3 年 4 月 27 日（火）11：00～11：30

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟 5 階 5F2 会議室

※ テレビ会議システムにより、記者会見の様様を同時配信

受信場所：東千田キャンパス 東千田校舎 A 棟 1F 会議室

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の実施機関として採択されました
2. 広島大学法学部×NHK「公共メディア論」を開講
3. 『コロナ禍の言語教育 ― 広島大学外国語教育研究センターによるオンライン授業の実践―』を緊急出版
4. コベルコ建機心理適応型スマートシステム共同研究講座の設立について

【お知らせ事項】

1. 令和 3 年度広島地域の元気応援プロジェクト募集を開始します
2. 広島大学の丸山史人教授が代表で「2021 年日本国際賞平成記念研究助成」を獲得しました

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和 3 年 5 月下旬

場所： 広島大学 霞キャンパス

令和 3 年 4 月 27 日

**文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学
フェローシップ創設事業」の実施機関として採択されました**

広島大学は、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の実施機関として採択されました。

今回採択された 47 大学のうち、ボトムアップ型及び分野指定型 3 分野のすべての博士課程学生を支援するのは、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学、九州大学、本学の 7 大学のみです。

本事業では、令和 3 年度から広島大学大学院リサーチフェローシップ制度を開始し、情報・AI、量子、マテリアル、サステナビリティ学の分野に入学する優秀な博士課程後期学生 53 人をリサーチフェローとして認定し、毎年度生活費相当の研究専念支援金 180 万円と研究費 30 万円のフェローシップを支給します。

令和 3 年 4 月に認定したリサーチフェローは 38 人で、約 3 割は広島大学以外の大学から入学した学生です。広島大学の学生のみならず、他大学から広島大学大学院に進学する学生も、本制度にチャレンジできます。

今後、今年度分の追加募集や、来年度のリサーチフェローの募集を行う予定です。

認定したリサーチフェローには民間企業や国際機関、起業に至る多様な複線型のキャリアパス形成を支援し、地域社会・国際社会で活躍・評価される、世界で通用する研究人材として輩出します。

広島大学では、若手研究者が研究に専念できるよう経済的支援とキャリアパス支援を実施します。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携部 企画グループ 清戸
TEL:082-424-4614
Email:kenkyu-conso@office.hiroshima-u.ac.jp

採択機関一覧(支給予定人数順)

機関名	申請区分・支援予定人数				計
	ボトムアップ型	分野指定型(情報・AI)	分野指定型(マテリアル)	分野指定型(量子)	
国立大学法人東北大学	40	30	30	20	120
国立大学法人東京大学	25	20	30	35	110
国立大学法人京都大学	11	25	40	21	97
国立大学法人大阪大学	20	13	20	25	78
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学	26	26	13	12	77
国立大学法人北海道大学	20	40			60
国立大学法人広島大学	13	10	24	6	53
国立大学法人東京工業大学		40			40
国立大学法人九州大学	12	8	8	6	34
国立大学法人筑波大学	6	8		17	31
国立大学法人金沢大学	10	7	10		27
国立大学法人千葉大学	8	6		6	20
国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学	6	6	8		20
公立大学法人大阪大阪府立大学	6		10		16
東京都公立大学法人東京都立大学			15		15
立命館大学	15				15
国立大学法人新潟大学	7	7			14
国立大学法人神戸大学	7		7		14
国立大学法人熊本大学	8		6		14
国立大学法人信州大学	13				13
国立大学法人総合研究大学院大学	6	6			12
国立大学法人山形大学			10		10
国立大学法人富山大学	10				10
国立大学法人岡山大学	10				10
国立大学法人九州工業大学		10			10
東京理科大学			10		10
国立大学法人秋田大学	8				8
国立大学法人豊橋技術科学大学		8			8
国立大学法人徳島大学	8				8
公立大学法人横浜市立大学	8				8
国立大学法人奈良女子大学	7				7
国立大学法人茨城大学			6		6
国立大学法人山梨大学	6				6
国立大学法人お茶の水女子大学	6				6
国立大学法人東京医科歯科大学	6				6
国立大学法人東京外国語大学	6				6
国立大学法人東京農工大学	6				6
国立大学法人静岡大学	6				6
国立大学法人三重大学	6				6
国立大学法人京都工芸繊維大学			6		6
国立大学法人愛媛大学	6				6
国立大学法人長崎大学			6		6
公立大学法人名古屋市立大学	6				6
公立大学法人京都府立医科大学	6				6
公立大学法人大阪大阪府立大学				6	6
公立大学法人兵庫県立大学	6				6
同志社大学	6				6
計	382	270	259	154	1,065

(人)

(参考)

採択件数	37	17	18	10	82
------	----	----	----	----	----

(件)

背景・課題

- 博士後期課程における経済的な不安と研究者としての将来のキャリアパスが不透明であることが相まって、近年、我が国では、博士後期課程に進学する学生が減少傾向にある。また、博士号取得者数も、主要国の中で我が国は唯一減少傾向にある。さらに、社会や企業の期待と博士課程教育との間のギャップ（人材ニーズの乖離）が存在するとの指摘もある。
- 博士人材は、知識集約型社会への転換が加速している我が国の発展を担うべき存在であるが、優秀な学生が研究の世界に失望し、研究者を志望しないとの厳しい指摘も多く、我が国の将来の科学技術イノベーションの空洞化が強く懸念される。また、新型コロナウイルス感染症の拡大による博士号取得の遅れや研究環境、経済状況の悪化により、上記の状況はさらに深刻化されることが見込まれるところ、この危機的状況を打開するためには、博士課程学生への支援の在り方を根本から変えていく必要があり、大学のシステム改革と連動した対策が急務である。

【統合イノベーション戦略2020（令和2年7月17日 閣議決定） 抜粋】

- 博士後期課程学生の処遇向上に向けて、学内フェローシップと博士課程修了後のキャリアパスの確保を一体として実施する大学への支援策の検討を進める。

事業概要

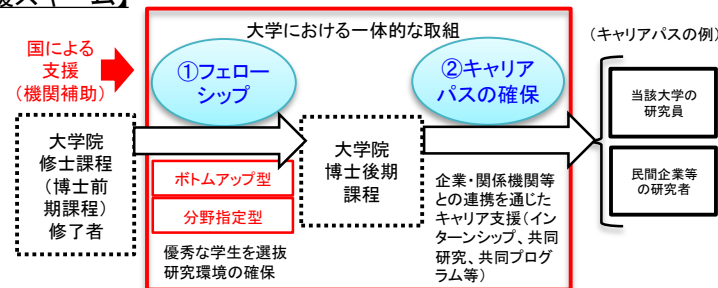
【事業の目的・目標】

- ①博士後期課程学生の処遇向上（生活費相当額（180万円以上）の支援を含むフェローシップ）と、②キャリアパスの確保（博士課程修了後のポストへの接続）を、全学的な戦略の下で、一体として実施する大学への新たな補助金を創設する。
- 価値創造の源泉である基礎研究・学術研究の卓越性と多様性を維持・強化していくため、将来を担う博士人材を戦略的に育成していくことが必要。このため、フェローシップは、各大学が将来のイノベーション創出等を見据えてボトムアップで提案するボトムアップ型と、国がトップダウンで分野を指定する分野指定型の2タイプとする。

【事業概要】

- フェローシップは、以下の2タイプ。
 - ・ボトムアップ型：大学の強みや地域の強み等を生かしたイノベーションの創出等が見込まれる人文・社会科学を含む幅広い分野を大学が提案
 - ・分野指定型：産学を通じて、人材ニーズの高まる分野（情報・AI、量子、マテリアル等）を国が指定
- キャリアパスの確保は、当該大学の研究員ポストや、民間企業等の外部ポストへの接続等が要件。なお、民間企業・関係機関等と連携し、ジョブ型研究インターンシップや共同研究等の人材育成プログラムの活用等を想定。

【支援スキーム】



【支援内容】

- ✓ 支援対象：国公立大学（機関補助）
- ✓ 支援期間：7年間（6年目以降は継続分のみ）
【国立大学の次期中期目標期間と連動】
- ✓ 支援規模：延べ55機関程度、1機関当たり10～25人程度
総支援人数：1,000人/年
- ✓ 補助率：3分の2
〔（生活費相当額（180万円～/人）＋研究費）×2/3〕
※事務経費×2/3を別途補助
※準備事業における事務経費については定額補助

アウトプット(活動目標)

【フェローシップの受給者数】

令和3年度	1,000人
令和4年度	2,000人
令和5年度	3,000人

【フェローシップ設立大学数】

令和3年度	延べ55大学程度
令和4年度	〃
令和5年度	〃

【外部機関と連携した大学数】

令和3年度	15大学
令和4年度	35大学
令和5年度	55大学

アウトカム(成果目標)

【初期アウトカム】

- ・大学における戦略的な博士後期課程学生支援の実施
- ・研究環境の充実に対する博士後期課程学生の満足度の上昇

【中期アウトカム】

- ・大学から博士後期課程学生への支援の充実（博士後期課程学生支援の多様化）
- ・進学者の経済的不安等の減少
- ・博士後期課程進学者の増加

【長期アウトカム】

- ・社会の人材ニーズと博士人材の育成とのギャップが解消し、優秀な博士人材が社会の多様な場で活躍できる環境の実現

インパクト (国民・社会への影響)

産学を通じて、イノベーションの創出に資する博士人材が活躍することで、我が国のイノベーションの創出力を高め、その成果が社会に還元される。

【事業の目的・目標】

国

科学技術人材育成費補助金（定額補助）

大学、国立研究開発
法人、民間企業

- ①博士課程学生の処遇向上（生活費相当額（180万円以上）の支援を含むフェローシップ）と、②キャリアパスの確保（博士課程修了後のポストへの接続）を、全学的な戦略の下で、一体として実施する大学への新たな補助金を令和3年度に創設すべく、支援機関の早期採択を実施。採択機関において、対象学生の選定や、先行的な体制整備等を令和2年度中に実施し、令和3年度当初からの学生支援を遅滞なく開始する。

※キャリアパスの確保は、当該大学の研究員ポストや、企業等の外部ポストへの接続が要件。なお、企業・関係機関等と連携し、インターンシップや共同研究等の人材育成プログラムの活用等を想定。

【支援内容】

①博士課程学生への支援を遅滞なく実施するための先行的な体制整備と審査の前倒し

- 博士課程学生へのフェローシップ支援（生活費相当額（180万円）以上を含む）やキャリアパス確保に向けた取組を4月から遅滞なく実施するため、大学の体制整備や学生の審査を今年度中に実施するための経費を先行的に支援。



各大学における博士課程学生に対する生活費支援を、遅滞なく年度当初から実施

②博士課程学生のキャリアパス確保に資する体制整備

- 各大学のキャリアパス確保に向けた取組を効果的・効率的に実施するため、各大学や民間企業等の情報を集約し、マッチングを促進するための体制を先行的に整備。



各大学が行う民間企業等との連携に関するマッチングについて、年度当初から効率的に実施



令和 3 年 4 月 27 日

広島大学法学部×NHK「公共メディア論」を開講

広島大学法学部専門教育科目「公共メディア論」を開講します。

これは、公共メディアやジャーナリズムのあり方、放送局の仕事について理解を深めるための授業であり、15回の講義全てに、NHKで実際に働いている職員が登壇します。放送した番組の視聴や、講義への質疑応答を交えながら進行することで、放送局の仕事や公共放送が担う社会的役割について分かりやすく伝えます。

- 第 1 回 開講にあたって
- 第 2 回 放送と記者の仕事
- 第 3 回 放送番組の制作と仕事 1
- 第 4 回 放送番組の制作と仕事 2
- 第 5 回 安全保障をめぐる報道
- 第 6 回 安全保障と世論
- 第 7 回 核・平和への取り組み
- 第 8 回 広島のスポート報道
- 第 9 回 コロナ禍の報道について 1
- 第 10 回 コロナ禍の報道について 2
- 第 11 回 広大出身者とNHK
- 第 12 回 職業としての公共放送
- 第 13 回 これからの“放送”とは
- 第 14 回 社会的コミュニケーションと放送
- 第 15 回 まとめ

【お問い合わせ先】

東広島地区運営支援部人文社会科学系支援室 柿之本
TEL:082-424-7205 FAX:082-424-7212

広島大学 × NHK

放送局の仕事や、メディア・ジャーナリズムのあり方について分かりやすく伝える「公共メディア論」を開講します。全7回の講義に、NHKで働く職員が登壇します。

講義について

開設期

第1ターム(4・5月)

講義名

「公共メディア論」

講義内容(講師:記者・ディレクターなどNHK職員)

第1回(4/12) 開講にあたって

(広島局) 安達放送部長・昇記者

第2回(4/19) 放送番組の制作と仕事

(広島局) 景山ディレクター 佐藤ディレクター

第3回(4/26) 安全保障をめぐる報道

(山口局) 津屋放送部長

第4回(5/10) 核・平和への取り組み
広島のスーツ報道

(広島局) 出山エグゼクティブアナウンサー

(広島局) 浅田チーフプロデューサー

第5回(5/17) コロナ禍の報道について

(広島局) 堀家副部長・石川記者

第6回(5/24) 広島出身者とNHK

(広島局) 比留木アナウンス専任部長
広島大出身若手職員

第7回(5/31) 「これからの“放送”“NHK”はどこに向かうのか」

(放送文化研究所) 村上研究主幹

令和 3 年 4 月 27 日

『コロナ禍の言語教育 — 広島大学外国語教育研究センターによるオンライン授業の実践 — 』を緊急出版

2020 年度、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、広島大学では、全国の大学に先駆け、4 月第 2 週からオンラインによる語学授業を開始しました。学生と教員、学生同士のやり取りの確保、小テストや課題の提示と効果的なフィードバックの方法など、これまで対面授業で考え抜いて行ってきた活動を、オンライン上で行い、これまでと同じかそれ以上の教育効果を生み出すことが課題となりました。

本書は、創意工夫に富んだ実践の成果や教訓をまとめた「実践報告書」であるとともに、それに考察を加えた最先端の「研究論文集」でもあります。

また、オンラン授業の進め方を解説・手引きする「ガイドブック兼マニュアル」でもあります。

新しい生活様式に対応した、ポスト・コロナ時代の語学教育の可能性を示す礎となるものと考えています。

コロナ禍 の 言語教育

広島大学外国語教育研究センターによる
オンライン授業の実践

Language Education
under the Coronavirus Pandemic
Online Courses Developed by Hiroshima University's
Institute for Foreign Language Research and Education

森田光宏・榎田一路
《編著》

淡水社



【お問い合わせ先】

外国語教育研究センター長
岩崎 克己

TEL:082-424-5949 FAX:082-424-6375

令和 3 年 4 月 27 日

コベルコ建機心理適応型スマートシステム共同研究講座 の設立について

令和 3 年 4 月 1 日、デジタルものづくり教育研究センターに「コベルコ建機心理適応型スマートシステム共同研究講座」を設置しました。

建設業界では少子高齢化に伴い熟練建設作業員の減少が課題となっており、作業効率向上や、優秀な建設作業員の育成・確保が喫緊の課題となっています。この課題の解決策として建設現場や労働環境の改善が挙げられ、その一助として建設作業員の Well-being^(※1) を充足することが重要といえます。

本研究講座では現場で働く技術者の心の状態を定性・定量的に把握する技術を用い、それらの情報を建設現場や建設機械に反映できる理論やシステムを構築するための研究を行います。人の心も建設作業も適応的に持続でき、技術者が Well-being を感じられる労働環境の実現を目指します。

具体的には、人を中心とした作業現場全体のパフォーマンスを向上するシステムの構築を目指し、建設作業員が適切な self-control^(※2) を行なう心理的な余力をリアルタイムで計測する「データ駆動型ソフトセンサ」を構築します。

これにより、建設機械操縦者の心理に基づいたフィードバック制御系を構築することが可能となり、実作業展開を見据えた基礎研究を行います。

※1 Well-being とは心身が良好な状態であることを指し、ポジティブ感情 (Positive emotion)、没頭 (Engagement)、人間関係 (Relationships)、生きる意味 (Meaning)、達成 (Accomplishment) の 5 つの要素から構成される考え方です (Seligman, 2011)

※2 Self-Control とは建機作業や日常生活での目標達成に向けて、自分自身の考え方や感情や体の動きをうまくコントロールする心理的機能のことを指します。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 産学連携推進部
湊かおる
TEL:082-424-3513



令和 3 年 4 月 27 日

令和 3 年度広島大学地域の元気応援プロジェクト 募集を開始します

広島大学では、令和 3 年度地域の元気応援プロジェクトの募集を開始します。
本プロジェクトは、学生・教員・地域団体の 3 者でチームを組んで、地域から提案があった地域課題の解決や地域活性化をめざす取り組みを、広島大学が支援するものです。

（助成額は、原則として 50 万円以内（基本 30 万円～50 万円）、採択は 10 件程度）

この事業では、最初に地域の方から、学生・教員に向けて、一緒に取り組んでみたい活動テーマを紹介していただくマッチングイベントを開催します。

そのイベントを活用して、地域活動に関心を持つ学生・教員と地域の方の 3 者のチームを結成し、地域を元気にするプロジェクトの企画を作成して、助成事業に応募していただきます。

第1段階：活動テーマを募集
（地域の人たちだけでは、解決が難しい課題をプレゼン）

第2段階：マッチングイベント
（提案した地域団体と広島大学の教員・学生とのマッチング）

第3段階：活動テーマに取り組むプロジェクトを公募
（地域団体と教員・学生が、共同で事業申請）

第4段階：プロジェクトの実施

本事業をスタートした令和元年度には、11 件の応募があり、その中から 8 件のプロジェクトを実施しました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で新規プロジェクトの募集は行いませんでしたが、既存の 6 プロジェクトからの提案内容に対して追加支援を行い、地域での活動の輪を広げたところです。
その成果は、本学のウェブサイトからご覧いただけます。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/ccc/ccc2/genki2019>

「広島大学公式ウェブサイト」→「社会・産学連携」→「地域連携」→
「地域の元気応援プロジェクト」→「令和元年度実施状況」

本学では、専門性の高い先端的な研究とともに、研究成果を地域課題の解決に活かす実践に取り組んでいます。

本事業においても、SDGs の目標 11 住み続けられるまちづくりをめざして、学生と教員が地域の方とともに実践に取り組むことで、地域の元気を少しでも盛り上げたいと考えています。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携部 地域連携部門 三戸
TEL:082-424-5871



令和3年度

広島大学 地域の元気応援プロジェクト

地域の課題を募集します！

**地域の人たちだけでは、解決が難しい課題に、
学生・教員と“チーム”で取り組んでみませんか？**

**地域の方からの
活動テーマの募集期間**
4月27日（火）～
5月31日（月）

**チームからの
プロジェクトの募集期間**
6月7日（月）～
7月5日（月）

マッチングイベント ※オンラインに変更の可能性あり

応募いただいた活動テーマ（地域課題）を学生・教員に10分程度で紹介いただきます
その後、チームごとのテーブルを設けて、学生・教員と交流いただきます

日時

第1回 2021年6月8日(火) 16:00～18:00

第2回 2021年6月17日(木) 16:00～18:00

会場

広島大学東広島キャンパス 東図書館3階 畳コモンズ

地域の元気応援プロジェクト（助成事業）募集要項

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/ccc/ccc2>

お問い合わせ・お申込み

広島大学
学術・社会連携部地域連携部門

TEL

082-424-5871

MAIL

chiikirenkei@office.hiroshima-u.ac.jp

地域の元気応援プロジェクトの概要

広島大学では、令和元年度から、本学の学術的な蓄積や教員・学生等の力を活用し、地域社会が直面する課題の解決や地域の活性化のために貢献することを目的とした、「地域の元気応援プロジェクト」を実施しています。

地域社会や地域経済の維持や活性化などの様々な課題について、地域社会で課題の解決に取り組んでいる団体から広島大学に対して提案をいただき、そうした課題へ取り組む意向がある広島大学の教員・学生と地域団体との協議の上で、調査・研究活動や実践活動などに取り組むものです。

■助成額及び採択件数

助成額は、原則として50万円以内
(基本30万円～50万円)

- ・採択件数は、10件程度
- ・助成対象経費

謝金、旅費、印刷費、会議費、消耗品費
※予算配分は教員に対して行い、教員が執行

■応募要件

地域の課題に取り組む地域団体（住民自治組織、NPO団体、任意団体など）と、広島大学の教員・学生（団体）が1つのチームとして申請

地域における社会貢献活動として取組む企業と協働することは可能

■地域から募集する活動テーマの例

- ・コミュニティ活動の活性化
- ・人材育成の活性化
- ・地域経済の活性化 など

■地域団体から活動テーマの募集期間

■マッチングイベント

(地域団体から提出されたテーマを聞いて、教員・学生と地域団体が意見交換するイベント)

第1回:

令和3年6月8日(火) 16:00～18:00
東図書館3階 畳コモンズ

第2回:

令和3年6月17日(木) 16:00～18:00
東図書館3階 畳コモンズ

■補足

- ・活動テーマの応募、マッチングイベントへの参加がなくても、第3段階にプロジェクトの公募は可能です。
- ・報告会、意見交換会などを開催することがありますので、活動報告などにご協力ください。

第1段階: 活動テーマを募集
(地域の人たちだけでは、解決が難しい課題をプレゼン)

募集期間: 令和3年4月27日(火)～5月31日(月)

第2段階: マッチングイベント
(提案した地域団体と広島大学の教員・学生とのマッチング)

第1回: 令和3年6月8日(火) 16:00～18:00

東図書館3階 畳コモンズ

第2回: 令和3年6月17日(木) 16:00～18:00

東図書館3階 畳コモンズ

第3段階: 活動テーマに取り組むプロジェクトを公募
(地域団体と教員・学生が、共同で事業申請)

募集期間: 令和3年6月7日(月)～7月5日(月)

第4段階: プロジェクトの実施

令和3年8月～令和4年2月

マッチングイベントの様子



地域の方からの
プレゼン



個別に
交流・意見交換

■プロジェクト紹介サイト

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/ccc/ccc2>

地域の元気、広島大学が応援します！

広島大学地域の元気プロジェクト

Hiroshima University



令和3年4月15日
広島大学 学術・社会連携室

地域の元気応援プロジェクトの制度概要

Hiroshima University

大学の資源を活用した地域との連携

令和元年度からスタートした「広島大学地域の元気応援プロジェクト」は、学生・教員・地域団体の3者でチームを組んで、地域から提案があった地域課題の解決や地域活性をめざす取組を、広島大学が支援するものです。

広島大学の地域との結びつきを大切にするという理念は、開学以来、一貫して変わることはなく、国際化の展開とともに「地域に根差す大学」として様々な取組みをしています。

■応募対象者

広島大学の学生＋広島大学の教員＋地域団体等
(地域と学生・教員により、連携して提案することが必要)

■募集等の日程

- ・募集 4月
- ・マッチングイベント(地域と学生・教員の出会い) 6月
- ・審査会 7月(学生・教員・地域によるプレゼン)
- ・事業実施 8月～2月(7か月)
- ・報告会 3月

■事業予算・採用件数

全体予算 400万円

採用件数 10件 (1件30万円～50万円)程度

地域社会が抱える課題への取組

地域社会と
大学の双方
の活性化

- ◇地域の人たちだけでは、解決が難しい課題
↓
◇広島大学の学生・教員が地域と一緒に具体的な事業を提案
↓
◇学生・教員・地域で活動し、地域を元気にする

SDGsの目標 11

・住み続けられるまちづくりを

- 令和元年度以降の採択テーマ
 - 1.安芸太田町 三段峡インバウンド
 - 2.東広島市志和 地域の学びの拠点形成
 - 3.呉市久比地区 持続可能な水資源確保
 - 4.呉市中通 商店街の賑わい創出
 - 5.呉市音戸 散策マップ制作
 - 6.呉市音戸 地域の資源掘り起こし
 - 7.三原市大和町 浅野家献上茶の復活
 - 8.尾道市瀬戸田町 レモン祭り企画・運営 2

地域の元気応援プロジェクト

Hiroshima University

地域の元気、
広島大学が
応援します！

○令和元年度の実績

- ・第1段階 プレゼン件数:19件
- ・第2段階 申請件数:11件
- ・第3段階 採択件数:8件(助成額1件あたり30万円)

○令和2年度の実績

- ・継続案件 6件を支援(コロナ禍のため、限定的な取組)

第1段階:活動テーマを募集
(地域の人たちだけでは、解決が難しい課題をプレゼン)

第2段階:マッチングイベント
(提案した地域団体と広島大学の教員・学生とのマッチング)

第3段階:活動テーマに取り組むプロジェクトを公募
(地域団体と教員・学生が、共同で事業申請)

第4段階:プロジェクトの実施



地域の元気応援プロジェクト(令和元・2年度実績)

Hiroshima University

◆Sandankyo Nature Trail Project

NPO法人三段峡ー太田川流域研究会さんけん ×
統合生命科学研究科 中坪 孝之

三段峡を自然や伝統文化を体験し学ぶことができるネイチャートレイル(自然散策道)として位置付け、外国人観光客をメインターゲットとし、情報を整理したガイドブックの作成・配布、エコツアーを企画・実行する。



◆中山間地域と大学を結び、世代を超えた学びの拠点を造ろう

つくれば工房 × 統合生命科学研究科 彦坂 暁

志和堀の古民家図書室ほたる荘と、併設するものづくりスペースつくれば工房をハブとして、世代を超えた学びの拠点を造る。IT/IoT技術を学べる環境の整備、サイエンス&テクノロジーWSの開催などを行う。



◆久比(くび)地区の水利用等住環境に関するサステナビリティの確立のための広島大学の瀬戸内拠点造り

一般社団法人まめな × 総合科学研究科 小野寺 真一

大崎下島久比地区の水資源、井戸水の研究を皮切りに広島大学の学生が久比に集いやすい環境を整備し、これからの未来の地域の形、住環境の持続可能なあり方のモデルケースを発信する。



◆学生ワークショップによる公共空間利活用の提案と実践

NPO法人SYL × 工学研究科 田中 貴宏

呉市の老舗と新しい店舗がバランスよく共生する中通り2丁目エリアで、公共空間の利活用による、持続可能な賑わい創出の形を探っていく。



地域の元気応援プロジェクト(令和元・2年度実績)

Hiroshima University

◆音戸の瀬戸周辺地域の散策マップ作成とマップを活用にした地域づくり提案

特定非営利活動法人地域力で里山を再生する会 ×

工学研究科 田中 貴宏

音戸の瀬戸周辺地域は、歴史的な資源を有するが、近年では、新たな地域資源も整備され、ている。本プロジェクトでは、学生が中心となり、地域の人々と連携し、新たな地域資源発掘を行いつつ、デジタル散策マップを作成する。



◆音戸ドリームアイランドカレッジフィールド

NPO法人アースキューブジャパン ×

総合科学部国際共創学科 張 慶在

音戸ドリームアイランドカレッジフィールドは、海外や全国からクリエイターが訪れ、夢を具現化する地域人材を育成と、地域の住民の方と交流する事で、現場で気づきを得て、島の魅力を発見し世界に発信したり、課題を解決する若手人材を育成する。



◆楽しい 飲みん茶い

まほろばくろたに × 文学研究科 伊藤 奈保子

三原市黒谷は、江戸時代、浅野藩へ献上した茶を栽培していた名産地だが、一度途絶えた栽培を平成24年から有志で復活させた。この広島煎茶をより多くの方々に、楽しんでいただくために広島の工芸品でお茶を楽しく頂く空間を演出する。



◆レモンの島瀬戸田, 地域と環境にやさしく共生する島づくり(レモンのある暮らしーレモンを生活の中に豊かに生かすー)

せとだレモン祭実行委員会×教育学研究科 富永 美穂子

レモン生産量日本一で国産レモン発祥の地である尾道市瀬戸田町において、日本一の生産量を誇るレモンを核に、地域住民の気づかない瀬戸田町の素晴らしさを、県外者を含めた若い世代とともにとらえ、発信し、活性化につなげていく。





令和 3 年 4 月 27 日

**広島大学の丸山史人教授が代表で「2021 年日本国際賞
平成記念研究助成」を獲得しました**

「日本国際賞平成記念研究助成」(<https://www.japanprize.jp/index.html>)は、今後目指すべき世界を実現するために、先端的で社会的にインパクトのある研究提案とさまざまな研究分野の専門家をコーディネートできる若手人材の発掘を目的とし、人文・社会系、理工学系を問わず、各々の知見を持ち寄って、協働して解決に取り組む試みを支援しています。

今回、代表 丸山史人 教授（学術・社会連携室）と藤吉奏 助教（学術・社会連携室）と京都大学、京都精華大学、広島工業大学、酪農学園大学との学際チームにより応募した「空気中に漂う微生物とうまく付き合うための新しい暮らしづくり」が採択されました。

（参考）<https://www.japanprize.jp/subsidy.html>

本プロジェクトは、「浮遊微生物の吸引による感染症やアレルギー疾患が問題となっている。最新計測技術を駆使した微生物・浮遊物質の動態、人の行動様式から住宅設計までを統合的に把握し、安全、安心な住環境構築策を提案する。」というもので、その最新状況、成果については、以下で常時発信していきます。

<https://mge.hiroshima-u.ac.jp>

<https://www.facebook.com/MicrobGenoEcol/>

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 環境遺伝生態学分野

丸山 史人

TEL:082-424-7048 FAX:082-424-7048